

■優秀賞（五十音順に掲載）

①有限会社 エイム（山口県岩国市）

<http://www.eim-tech.co.jp>

○表彰事業

『高所作業の万が一に備える衝撃分散型親綱支柱』

○事業内容

1987年4月、有限会社浴野鉄工所設立。1999年4月、有限会社エイムに社名変更。鉄、ステンレス、ニッケル、アルミ、銅などの素材を、プレス、曲げ、打抜き、絞りの技術を施し、内歯車やリングギアなどのインターナル製品に加工している。近年ではゴミ分別機や脱臭装置などの環境製品の開発にも着手している。

2019年12月、高所建設現場での作業時の墜落転落リスクを防止する新たな商品を開発。「衝撃分散型親綱支柱：リリーフポスト」と呼ばれるこの製品は、万一落下した場合でも、転落した際に受ける人体への衝撃荷重を大幅に軽減。作業員の安全面・健康面にも配慮した画期的な商品で、2023年8月に国土交通省のNETIS（登録番号：CG-230004—A）を取得。大手ゼネコンでの運用も開始し、今後の市場拡大が見込まれている。

②株式会社 ERISA（島根県松江市）

<https://www.erisa.co.jp>

○表彰事業

『脳画像解析 AI の社会応用、高齢者大国から脳健康大国へ』

○事業内容

2017年4月設立。AI×OIを用いた脳画像解析技術の研究開発・販売を営む。具体的には脳ドックの検査オプションサービス、島根大学医学部や滋賀医科大学と開発した、中枢神経系疾患の脳画像を判別する個別AIソフトウェアの開発・販売、AI画像解析・受託研究を手掛ける。

高齢化に伴う認知症という課題に対し、2021年から脳ドック受検者のオプションメニューとして「認知症リスク検査：SupportBrain」を販売。島根大学医学部や、滋賀医科大学と産学連携したこの商品は、脳内の海馬およびその周辺部位のみではなく、扁桃、嗅内野の関心領域のほか、脳内ネットワークに関連する領域を全脳で評価し、認知機能低下にかかる合理的な解析が可能である。所要時間約30分で解析が完了するため、患者本人に対しても身体的・時間的負担が少ない。

現在、認知症リスクに対する関心は非常に高まっており、認知症予防の観点からも需要拡大が見込まれる。

③株式会社角屋食品

(鳥取県境港市)

<https://kadoya-tottori.jp>

○表彰事業

『アジフライカンパニーの競争戦略』

○事業内容

2006年6月、水産食料品製造業として設立。2017年から『アジフライカンパニー』を謳い、アジフライに絞ったマーケティングと研究開発を推進。他の水産加工会社との差別化を図り生産性の向上に取り組んでいる。2021年7月、高級クラフトアジフライ「鯨王」を開発し、アジフライ商品の高付加価値化を実現。「すみっこぐらし」や「ゴジラ-1.0」などともコラボし、自社製品のみならず鳥取県の知名度やイメージアップ、地元経済の活性化に貢献している。

また毎日大量に生じるアジの加工残渣（頭や骨等の非可食部、アラ）から機能性物質を抽出・精製する研究開発を大学等外部研究機関と連携。栄養価が高く健康に良い食品の提供に取り組んでいる。

「アジフライ」商品製造販売における自社の地位が向上する中、同市場の需要拡大も見込まれる。